

所属学部/研究科・学年(留学時): 学際情報学府 修士 1 年

留学先大学・学部/研究科等: カリフォルニア大学バークレー校 IIS-ISP 政治学部

留学期間: 2012 年 8 月 ~ 2013 年 5 月

卒業・修了後の就職希望先: 1. 研究職 2. 専門職(医師・法曹・会計士等) 3. 公務員 4. 非営利団体 **5. 民間企業**  
6. 起業 7. その他( )

### 1. 留学先大学の概要

アメリカのカリフォルニア州バークレー市にある州立の総合大学です。カリフォルニア州立大学群の中で最初に設立された大学であることから、California の略称である"Cal"の愛称で親しまれています。Times 世界大学ランキングで 10 位以内に入るなど、世界的に高い評価を得ています。70 人以上のノーベル賞受賞者や数多くのオリンピック選手を輩出しています。また、1960 年代のフリームーブメントスピーチの発祥の地でもあり、リベラルな校風で知られています。世界中からの留学生を受け入れており、特にカリフォルニアという土地柄かアジア系の学生が多くなっています。

### 2. 留学の動機

- ・アメリカの国際関係に対する視点を学ぶ
- ・研究のための文献収集

### 3. 留学の準備

#### ① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

分からないことや困ったことがあった際には Berkeley の担当教授にメールで質問していました。会ったことのない Berkeley の教授に英語のメールで質問するとなると少し躊躇してしまうかもしれませんが、とても親切で頼りになる方なので、気軽に連絡してみてください。

#### ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F1 ビザを在日米国大使館(赤坂)で申請。

在日米国大使館にビザ申請の予約を取り、面接に行き、その後ビザが郵送されてくるという流れなので、約 1 ヶ月かかります。特に夏休み前はビザ申請者が多く、面接の予約が取りにくくなるそうなので、ビザ申請のための必要書類が揃い次第、すぐに予約を取ることをおすすめします。

#### ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

歯科と内科に行きました。歯科では虫歯の有無のチェックと親知らずの抜歯を行いました。また内科では、以前米国に滞在した際に胃もたれをおこしたことがあったので、胃薬等をもらいました。

#### ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学生協の海外旅行保険とUCB Extension Center が提供する医療保険の2つに加入していました。留学中には生まれて初めての食中毒にかかったり、マイナーな感染症にかかったりと、意外と医療機関を利用する機会がありました。

#### ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位互換は認められませんでした。渡航した年の 10 月から翌年の 9 月までの休学手続きを行いました。

#### ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

渡航の 1 年半前の時点で以下の程度でした。

TOEFLiBT90...大学院入試のために取得したスコアを UCB 申し込み時に提出しました。

TOEIC900

留学のための特別な語学の準備はしませんでした。趣味としてアメリカのドラマを英語音声のみで見たり、結果としてリスニングの良い練習となった気がします。

#### ⑦ 日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

電子辞書

: 携帯の辞書アプリや PC でネット上の辞書を使う習慣のある方もいるかと思いますが、授業によっては携帯や PC の使用が禁止されていました。電子辞書を含む辞書の持ち込み可の試験もあったので、持参を強くおすすめします。

浴衣

: 日本の伝統衣裳ということでウケが良かったです。Sunday Supper と呼ばれるややフォーマルな夕食会など、何か

と着る機会があるので、持参すると役立ちます。サンフランシスコの Japan town にも浴衣はありますが、サイズや柄が日本人向けではないので、現地での購入はおすすめしません。

#### 4. 留学生活について

##### ①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

IIS-ISP 参加者は基本的に International house(i-House)で2人部屋に住むことになります。3,4階が通称パーティーフロアで、大分にぎやかです。8階が女性専用となっており、他のフロアに比べると静かなので、女性の方には8階がおすすめです。IIS-ISP からは i-House に住むことが highly recommended とされていますが、自分でホストファミリーを探してホームステイしている参加者もいました。

##### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

###### <気候>

California は年間を通して暖かいというイメージがあるかもしれませんが、朝晩はかなり冷えます。現地で購入することもできますが、カーディガンやパーカーを持参すると便利です。また、日差しが強く、特に夏場はサングラスや帽子、日焼け止めが必須です。

###### <お金の管理>

現地で Bank of America の口座を開設し、日本からの送金はその口座にしてもらいました。日本からクレジットカードを2枚持参しましたが、手数料を考慮して Bank of America のデビットカードをよく利用していました。

###### <交通機関>

サンフランシスコに行く際は地下鉄の BART を利用していました。空港にも BART で行けますが、荷物が多い時は Super Shuttle という相乗りのバンを利用していました。

##### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

###### <治安>

Berkeley は大学町ということもあり、治安はアメリカの中でも良い方だと思います。ただ、場所によっては人気がなかったり、怪しげな人が多かったりするので、あくまでアメリカに在るということを忘れずに気をつけてください。Berkeley の隣の Oakland や San Francisco の一部は治安が悪いので、行かないのが無難です。

###### <医療機関>

医療機関は UCB の Tang Center を利用しました。ただ、使い勝手はあまり良くありませんでした。予約制で、診察まで数日間待たねばならず、予約なしの場合は\$100 ほどかかる緊急外来に行かねばなりません。(保険に加入していればこの費用は返ってきますが)また、日本ならば処方箋を出してくれそうな時でも、近所のドラッグストアで市販の薬を購入するように言われたり、全く薬を出してくれなかったりしました。

###### <健康管理>

RSF で定期的に体を動かしたり、日本にいる友人とスカイプをしたり、サンフランシスコに買い物に行ったりして、ストレスを発散していました。寮に住んでいると友人に囲まれて楽しい反面、自分一人の時間を持つことが難しいので、時々一人で出かけたり、キャンパスの図書館にこもったりしていました。

##### ④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

###### ・毎月の生活費とその内訳

\$5000 の現金を持参し、外食費や教科書代等に当てていました。

寮費は事前に支払いを済ませており、寮費に寮での食事代も含まれてあったので、生活していく上で毎月必ず支払わねばならないものはありませんでした。

###### ・留学に要した費用総額とその内訳

授業料 \$26120

寮費 \$13200

保険料 \$2000

往復航空賃 \$2500

外食費 \$1500

教科書代 \$600

##### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

一切ありません。

##### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

1学期目はアメリカの文化体験と友人作りを兼ねて、i-House の主催するイベントによく参加していました。2学期目はキャンパスにある Zellerbach hall で行われるコンサートに行ったり、ハワイクラブでフラダンスを習ったり、していました。i-House のプログラムオフィスではしばしば無料チケットの抽選を行っており、私も3回そのチケットでオペラやサーカスを見ました。1年間を通しては、RSF と呼ばれるジムに行ったり、中国や韓国出身の友人と母国語を教え合ったりしていました。長期休暇中は東海岸や南米に旅行に行きました。

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)

帰国後に参加予定のインターンシップへの応募をしました。

私は参加しませんでした。ボストンで毎年秋に開催される就活イベントに行く日本人は多かったです。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Political Science 5 “Introduction to International Relations”

Political Science 124C

Political Science 123

Political Science 179

Peace and Conflict Studies190 “Navigating Culture”

Sociology 160 “Sociology of Culture”

Interdisciplinary Studies 100H “Introduction to Media and International Relations”

DeCal “Microfinance”

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<予習・復習>

ディスカッションセクションのペースに合わせてリーディングの予習をしていました。復習兼試験対策として、リーディングの要旨と講義内容をノートにまとめていました。

<印象に残っている授業>

Sociology 160 では gender, class, sex といった題材を深く学ぶことができ、とても興味深かったです。人種による学歴格差の問題や若者の性行為といった日本ではあまり公然と語られることのない話題を教授と学生がオープンに議論しているのが印象的でした。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

前期は3科目で12単位、後期は5科目(DeCal1つ含む)で14単位履修しました。Political Scienceの授業は基本的に1時間半の講義が週2回にディスカッションセクションが1時間~2時間で週1回となっています。授業時間だけで1科目あたり週4~5時間あります。講義は30人程度の小規模なものから300人程度の大きなものまであります。講義の途中や最後に質疑応答の時間があるので、質問はしやすかったです。ディスカッションセクションは博士課程の学生であるGSI(Graduate Student Instructor)が教えており、1クラスあたり20~30人程度です。進め方はGSIにより異なりますが、3~5人ずつのグループに分けられて、GSIが用意したクエスチョンについて考え、最後にクラス全体に向けて意見を発表するという形が一般的なようです。

④学習・研究面でのアドバイス

アメリカ人の学生はプレゼンやディスカッションなど「話す」ことが得意なので、日本人留学生にとってはディスカッションセクションが一番大変かと思います。また、留学生は大抵一度は試験で悪い成績を取るようです。中間試験の結果が悪かったとしても、期末試験や小テスト等で挽回は可能なので、あまり落ち込みすぎずに頑張ってください。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

留学に行けば自然と英語力が上がるだろうと思っている方もいるかもしれませんが、当然のことながら極力語学力を上げから渡航したほうが良いです。UCB、特にI-houseには様々なバックグラウンドを持つ学生が集まってきましたが、母国でも英語で授業を受けている人も少なくはなく、留学生と言えども流暢に英語を話す人が多いです。日本人も帰国子女で英語には困らないという人が大半を占めていました。このプログラムはTOEFLIBT80から応募が可能となっていますが、80では正直苦しいと思います。もちろん授業や友人との交流を通して英語力は向上しますが、この留学は語学留学ではなく、英語で専門科目を学ぶ留学なので、語学力はしっかりと高めておいてください。留学当初は他の留学生の英語力に圧倒されていましたが、話を聞く側に徹してしまうと存在感をどんどん失ってしまうので、少しでも自分の意見を言うようにしました。何を言われたのか理解できなかったり、聞き取れなかった時はしっかりと聞きなおす勇気を持ってください。この点が曖昧さを許容し、恥をかくの嫌がる日本人にとって難しいことだと思います。ですが、聞き直さないとさらに恥をかくことになるので、頑張ってください。また、アメリカ人の友人や自分よりも英語に堪能な留学生の友人にはレポートの添削をお願いしたり、イディオムやスラングを教えてもらったりしていました。表現が悪いかもしれませんが、教授やGSIだけでなく友人も積極的に利用してみてください。余力があれば、せっかく様々な国からの留学生に会えるので、英語だけでなく、中国語・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・アラビア語等の第二外国語にも真剣に取り組んでおくとも良いです。友人を作るきっかけにもなります。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

<学習面>

ライティングセンターでレポートの添削を受けることができますが、私の周りには利用している人はいませんでした。教授やGSIに自分が留学生であることを話し、勉強のアドバイスを受けると良いかと思います。

<精神面>

カウンセリング大国アメリカということもあり、希望すれば無料のカウンセリングを受けることができます。勉強もですが、寮で2人部屋だとプライバシーがないので何かとストレスが溜まります。寮にもプロのカウンセラーがいるので、気軽に相談してみてください。

## ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

### <図書館>

寮の2階に24時間利用可能な図書室があります。キャンパスには20程図書館があります。中央図書館は平日は深夜2時まで、期末試験期間は24時間開いているので、集中したい時はそこで勉強していました。本を借りたい場合は、6ヶ月\$20程で利用者カードが作れます。

### <スポーツ施設>

構内に RSF と呼ばれるジムがあり、1学期\$140 で会員になれます。ヨガやキックボクシングの教室も開かれています。プールやテニスコートもあります。

### <食事>

食事はミールポイントがあるので基本的に寮の食堂で済ませていましたが、近所の韓国レストランや中華レストランに行ったり、ダイソーや Japan town で買ったレトルトカレーを食べたりもしていました。寮にキッチンが1つだけありますが、予約制で\$100 のデポジットを払わなければならないので、パーティーの時以外は使いませんでした。私は利用しませんでした。寮から有料の冷蔵庫を借りることもでき、キッチンで調理して、冷蔵庫で保管して食べている人もいました。

### <PC 関連>

大学構内でも寮でも無料の wifi が利用できます。寮には PC 室があり、コピーカードを購入すれば印刷もできます。

## 7. 留学を振り返って

### ①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

確かに自分の意見を述べるという点ではアメリカ人の学生のほうが上手でしたが、知識の量では東京大学の学生のほうが上だと感じました。マイケル・サンデル教授の「白熱教室」のせいか、アメリカの大学はレベルが高いというイメージを持っていましたが、Berkeley に東大は決して引けを取らないと思いました。

### ②留学後の予定

夏休み中にインターンシップに参加し、10月から復学する予定です。

### ③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

至極当然ですが、留学する目的を明確にし、その目的に合わせて留学先を選ぶようにしてください。一口に留学と言っても、国・地域・大学・専攻によってその内容は千差万別です。大学の知名度やランキングが高くとも、自分の専攻分野はあまり強くないといったこともあります。留学先を決める際にはぜひ東大の協定校や UC Berkeley 以外も調べ、自分に最適の留学先を選び出してください。

## 8. その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Facebook...渡航前にルームメイトと連絡を取り合うのに役立ちました。

所属学部/研究科・学年(留学時): 経済学部経済学科3年

留学先大学・学部/研究科等: カリフォルニア州立大学バークレー校

留学期間: 2012年8月 ~ 2013年5月

卒業・修了後の就職希望先: 民間企業

### 1. 留学先大学の概要

カリフォルニア州立大学バークレー校は数あるカリフォルニア州立大学の中心校でサンフランシスコの郊外にあります。数多くのノーベル賞受賞者などを輩出し、スタンフォード大学とライバル関係にあります。

### 2. 留学の動機

### 3. 留学の準備

#### ①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

一番面倒なのが寮(international house)の手続き。自分でルームメイトを見つかなければいけないので早く手続きを進めることをオススメします。また寮の階ごとにうるさかったり静かだったりということがあるので、部屋決めも大事です。

#### ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザ申請に関しては日本人が落とされるということはなかなかないかもしれませんが、ビザの面接でよく聞かれる質問などに関して答えを事前に作っておくといいかもかもしれません。

#### ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

たしか自分は何もしなかったように感じます。

#### ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

バークレーの保険に加入しなければなりません、それで不安ならもう一つ保険に入っても良いかと思います。僕はAIU保険を利用しました。

#### ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

1年分の休学手続きをしました。ゼミに関しては半年分の単位が出るように単位分割の申請手続きを行いました。

#### ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

外国語の練習ができるような環境にはいなかったの朝に社会人などがやっているカフェでコーヒーを飲みながら英語でdiscussionをするようなクラスに参加して英語をしゃべる練習をしていました。

#### ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

スーツは一着持って行ってもいいと思います。

#### 4. 留学生活について

##### ①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

International house といって各国からの留学生在がメインの寮。基本的には2人部屋で3-8階に部屋があるけれど、階ごとにうるささの差があります(3、4階は学部生用の2人部屋が多いためうるさい。5階以上は大学院生用の一人部屋が増えるため、割と静か) 家賃は確か月1200ドルぐらいと高め。食事代はこれに入っています。

寮に関しては自分で決めなくても与えられます(契約はしないといけませんが)

##### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は一年中熱くも寒くもなくという気候。カルフォルニアではあるが北の方なので少し涼しめ。天気は基本的には晴れ。雨は10-11月ぐらいに少し降るぐらいです。滞在中に15日ぐらいしか雨が降らなかった気がします。交通機関は空港から駅まで BART という地下鉄が通っています。それでサンフランシスコにも行けます。最寄りの Downtown Berkeley 駅から寮までは歩いて30分。バスもありますが、正規生は無料ですが、私たちは無料ではありませんでした。(1回2ドル)

大学周辺は基本的には安全で治安はいい方ですが、校内など人気の少ないところはもちろん一人で歩かない方がよいかもかもしれません。ホームレスは多いですが何かされるということはないでしょう。

お金に関しては現地で銀行口座を作るのが普通です。バークレーには学校の近くに Bank of America, 駅の近くに JP Morgan CHASE 銀行があります。どちらも店舗数はアメリカ国内に十分あるのでどちらでもいいでしょう。私はルームメイトの勧めで CHASE でした。

##### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

病院は Tang Center という在校生のための病院があります。私は行ったことないのでわかりませんが、風邪、インフルエンザなど基本的な病気ならここで大丈夫なはずです。

##### ④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

###### ・毎月の生活費とその内訳

基本的には生活費は少なめです。食事は寮でとれるので、少しの外食代、飲みに行く代金、教科書代ぐらいで済みます。教科書はとにかく高いのでレンタルしたり、ネットで探したり、使い終わっていらなければ売るといったことをすればお金の節約になると思います。

###### ・留学に要した費用総額とその内訳

##### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

なし

##### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

私はテニス(Tennis at Cal)とバークレーの日本人会(Cal Japan Club)、あとは寮内の交流のプログラムが多かったのでそれに参加していました。

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)

特になし

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

PS138B (Political Science) Japanese Politics (fall) PS5 Introduction to International relation (fall)

EEP1 (Environmental Economics and Policy) Introduction to environmental economics

EEP154 Economics of Technology and Poverty STAT21 (statistics) Statistics for business

UGBA107 (Undergraduate Business Administration) Ethics for Business

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

予習が全体であることが多く、予習が終わらないと授業についていけない。

ビジネスと倫理や環境系の授業が多いなど日本にはあまりない授業を取ることができた

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

④学習・研究面でのアドバイス

同じ授業をとってる人同士でグループを作って勉強するといいかと思います

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

レポートとかの作成において SLC (student learning center) といって文法とかの修正をしてくれる場所があります。(もちろん一番簡単なのはアメリカ人の友人に頼むことです)

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

正規生ではないので図書館のカード(1 semester \$20)、ジムのカード(1 semester \$140) が必要です。Wifi は基本的には学校と寮全体にあるので困ることはないです。食堂は寮にあります。学校には食堂はなく、カフェぐらいしかありません。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外で生活したことがなかったので海外で生活、そしてアメリカの中でもトップと言われる大学で勉強が出来たことはコミュニケーション能力含め視野が広がったと感じました。

②留学後の予定

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: UC Berkeley IIS-ISP)

所属学部/研究科・学年(留学時): 前期教養学部 2 年  
留学先大学・学部/研究科等: カリフォルニア大学バークレー校  
留学期間: 2012 年 8 月 ~ 2013 年 5 月  
卒業・修了後の就職希望先: 7. その他(未定)

1. 留学先大学

カリフォルニア大学バークレー校

2. 留学の動機

学問(政治思想、哲学)に対する理解を深めるため。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

特になし。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

余裕をもって申請した方がよい。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

AIU 保険会社の海外留学保険を利用した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前の英語レベルは低く、可能な限り英語の学習に時間を割いた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になし。

4. 留學生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

International House に入居した。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候、治安等は良く過ごしやすい街だった。初めての海外生活ということで様々に苦労はあったが、寮の友人達の助けもあり快適に過ごすことが出来た。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気がつけた点など)

特になし。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

月 100\$程度。主に飲食費。

・留学に要した費用総額とその内訳

正確には把握していないが、300 万程度。ほとんどがプログラム参加費。

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額など)

なし。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)  
サッカーチームに所属していた。週末や休暇はよくルームメイトや寮の友人と旅行に行った。

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)

なし。

#### 5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Japanese Politics

International Politics

Political Theory

Wittgenstein

Hegel

International Conflict

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

前述の通り、決して英語レベルは高くなかったため、授業に参加していくため予習に時間を割いた。そもそも留学参加の動機自体も学問に関連するものであるため、意欲的に学習した。ヴィトゲンシュタインとヘーゲルの授業、及びディスカッションが強く印象に残っている。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など  
一学期あたり 12units を履修。

週に少なくとも 30 時間ほどは学習していた。

④学習・研究面でのアドバイス

語学に不安があるならあるほど、予習に力を入れるべき。授業に参加できないのが一番もったいない。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

上記の通り。

#### 6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

特になし。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

立派だった。

#### 7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

かなり明確な目的をもって留学に参加し、その目的を十分達成することが出来たと感じている。しかし一番意義があったのは、留學生活の中でそもそもの自分の目的自体に疑問を感じたり、今まで自分が考えたこともなかった可能性に気付いたり出来たことだ。

②留学後の予定

未定。研究職か公務員。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

目的をしっかり持っていかないと何も意味がないと思う。

## 8. その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし。

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: UC Berkeley IIS-ISP)

所属学部/研究科・学年(留学時): 経済学部/3年

留学先大学・学部/研究科等: カリフォルニア大学バークレー校

留学期間: 2012年8月～2013年5月

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 **5.民間企業**  
6.起業 7.その他( )

### 1. 留学先大学の概要

学部生に関しては頭の良さは東大生と同等もしくは東大生より下と感じた。院生はみな飛びぬけて頭が良いと感じた。アジア系が非常に多い印象を受けた。

### 2. 留学の動機

社会に出る前に自分を一度アウェイ環境に追い込みたかったから。

### 3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

早めに行動すること

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

F-1ビザ。早めに行動すること

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

早めに行動すること

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損保ジャパン

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL ibt97点。週に一度バイリンガル教師とスピーキングの練習。海外ドラマを見て表現に慣れる。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

英語(とくにリスニングとスピーキングはできるだけ勉強しておくこと。)

#### 4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

留学生寮

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候はカリフォルニアとはいえ夜や冬は非常に寒い。寮の食事はお世辞にもおいしいとは言えない

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

どこかに出かける際は治安をチェックするべきだと思います。

体調を崩しやすくなるので、日本からたくさん薬をもっていくと良いと思います。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

3万円ほど。お小遣いと寮以外での食事代。

・留学に要した費用総額とその内訳

総額は250万ほど。200万ほどが授業料、寮費。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

なし

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

日本人クラブに参加した

⑦留学中の就職活動等への対策(行った場合)

なし

#### 5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

国際金融、国際貿易、金融経済、公共経済、金融政策、デリバティブ

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

課題が非常に多い

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

平日は3時間、週末は1日5時間ほど

④学習・研究面でのアドバイス

リーディングに慣れると効率が上がります

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

最初は聞き取りに苦勞しましたが慣れます

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とくにない

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

非常に良い。寮の食堂のご飯のみ改善の余地があると思った。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

英語力の向上、挫折を感じることに

②留学後の予定

就職

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

行けるなら行ったほうが良いです。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

とくになし

その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。